

(福) ケアハウス信愛館

◆聞こえてくる蝉の鳴き声が変わり、猛暑だったこの夏も過ぎ、空の高さに秋の訪れを感じます。暑さ対策はもちろんの事、新型コロナウイルス感染者数の報道を耳にするたび、職員には緊張感が走り、その対策に追われた夏でもありました。

◆七月十五日(水) 看護小規模多機能型居宅介護「友愛の家・ヴォーリズ」管理者 向美保さんにお話しサービス内容の説明会を信愛館で開催しました。近くの場所もあり名前も知っている施設にもかかわらず、どのような条件でサービスが受けられるか、それについての身体状況はなど、わからない点も多くありましたが、よく理解することができ「今後の参考になりそう」と入居者皆様は喜ばれていました。

◆七月十七日(金) 映画会「聖書を読んだサムライたちⅡ」く世界に羽ばたいた四人の男たちくを鑑賞しました。激動の時代、強い誇りと熱い思いを抱いて海を渡った四人の志士ジョン万次郎、新島襄、福沢諭吉

新渡戸稲造の生き方に大きな影響を与えた「聖書」について、その出会いや知られざるエピソードを探り、日本の近代教育にどのような影響を与えたかという視点で製作された作品でした。これまでのイメージとは違った一面も知ることができ、「よりいっそう感銘を受けた」「とてもよかった」等、鑑賞された皆様は口々に話されています。

◆七月二十九日(水)「夏祭り」を行いました。今年は「細巻」「天ぷら」「たこ焼」そして初めての「梔子そば」「アイスクリーム」のメニューでした。たこ焼はいつもながら大人気。おかわりもたっぷり用意され皆様は満足された様子でした。

◆八月七日(金) 信愛館居室前の柵に「七夕飾り」が飾られています。入居者・鶴谷頼子さんによるお手製で鶴谷さんの故郷は仙台。七夕行事は旧暦で行われるそうです。関西で飾られている飾りとは内容が違い、地方によって変わるのも興味深いことです。珍しいのは必ず「七つ飾り」があるようで、それぞれに願いが込められ、例えば

「紙衣」は和紙で作られた着物(以前は本物のゆかたの場合も)で、裁縫の上達を願いながら病や災いの身代わりとして、「巾着」は金銭に不自由しないことを願いつつ節約と貯蓄の心を養うため、など教えていただきました。人々の願いは時代が移り変わっても、変わらないことに感銘を受けました。

